



知念様は大正9年6月生まれ、今年で満百歳を迎えられました。
沖縄県立第一高等女学校（一高女）を卒業した才女で医師の夫と結婚し

ご家族のご紹介

特別養護老人ホーム大名



知念様は、今年で満百歳を迎えられました。写真：知念様

て2名の子を育てながら家庭を支え、92歳までは牧志公設市場へひとりで買い物に行っていたそうです。

平成27年に老人ホームへ入居された後も息子さん達の面会がよくあり、新型コロナウイルスの感染予防対策をしつかりと行いながら（写真上）足を運んで下さいます。

俳句コーナー

デイサービスせんりようのご利用者、伊禮久美子様の俳句をご紹介します。

伊禮様は、五七五の十七音に季語を入れて詠む俳句に取り組まれて5年程になります。

日々の暮らしの中で、雨が降ったり、鳥が鳴いたり、蝉が鳴いたり、と季節の訪れを五感で感じた時にその情景を句にされています。

一日の中でよく句が浮かぶのは朝起きて部屋のカーテンを開けた時だそうです。



《伊禮様のお気に入りの句》

ガラス越し 蜘蛛糸引きて 雲渡る

《夏編》

バンシルの 白い花咲き乱れ

《秋編》

秋の空 夏の雲あり 鱗雲

秋空に 歩け歩けと 靴がなく

秋の風 懐かしにおい 運動会



サポートハウスのぞみ

名嘉座 富士子様のご家族

入居者の名嘉座様(95歳)より「日頃参加している書道サークルで書いた作品を息子へプレゼントしたい」とのご希望がありました。早速、外部講師の高原史鵬(たけはらしほう)先生にご相談したところ先生のご厚意により素敵に額装していただきました。受け取った息子さんも大変喜ばれ、ご本人にとってはこれからの活動の大きな励みにもなりました。

ご利用者様 シタイヒヤヤー!

こんなこと好きです・得意です・ハマってます

デイサービスセンター谷茶の丘

「手作りマスクに チャレンジ」

デイサービスでは日頃から手芸好きなご利用者が10名ほど集まって、学校へ寄付するための雑巾縫いなどを行っています。今回その方々が「この時期に自分たちに出ることはないか?」



と考えて「マスクが不足してるとよ、じゃあ私たちが作ってみよう」とマスク作りに取り組みました。作りながら「昔は服はなんでも自分で作ったよ」「若い頃はなんでも自分で作ったよ」と裁縫は誰よりも得意だったよ」と自慢話にも花が咲きます。早い人では1枚を1時間ほどで、ゆっくりの人



は1週間ほどかけて自分のペースで仕上げています。

大名デイサービスフレンドふるじま

當間 キク様

「人望の厚い大先輩」

當間様はデイサービスを御利用されて8年近く経ちます。またご長寿のおひとり今年満百歳を迎えられます。

ご高齢でも手先が器用で集中力があり、手芸サークル活動にも楽しく参加されています。

サポートハウスのぞみ

久高 輝子様

「作品は私のお守り」

しきなガーデンでは毎年サークル活動でつくった作品を識名老人福祉センター「地域福祉まつり」に出品しています。

今年は久高様が得意なビーズ作品も数多く並びました。

昔手芸教室の講師をしていたこともある久高さん、手先が器用なのはお母様譲りです。お母様はソテツの綿の部分をお守りにする「琉球手毬」を作るのがお上手で沖縄にも度々

しく参加されています。サービスを利用してから体調を崩すことも少なくなったと喜んでいらつしやいます。

以前は「沖縄国際婦人クラブ」(国際親善や社会福祉を目的とした慈善団体)の会員として様々な社会貢献活動に参加されてきました。いつも穏やかで物ごとに動じない當間様は他のご利用者様からの信頼も厚い大先輩です。



出展していたそうです。久高さんは最近では作品づくりの機会が減りましたが、昔の作品をお守り代わりに身近に置かれていきます。

